

**敦賀市都市計画マスタープラン策定に係る地域別説明会 ～北地域～
開催結果**

■開催概要

開催日	時間	場所	参加人数	アンケート回収数
1月24日(金)	19:00～20:30	北公民館	6人	6枚

■参加者からの意見等

	意見	回答
観光	<ul style="list-style-type: none"> 北地区構想を作り、市へ色々な形でお願いしてきた結果、それなりの形に整ってきた。 構想での人の流れは、港へ人を集結させ、それから順次、色々な施設などを歩いて回るというもの。 問題としては、神楽通りの門前町一帯がもう少し賑わいがある形にならないか。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 氣比神宮参拝の観光バスはたくさん来るのに、神宮前には何もないために、裏手の駐車場に停めてしまう。 けいさん祭りのように、ずらっと露店を並べ、敦賀名物を売っていれば、観光客が訪れると思う。 国道2車線化をしているが、何かしないと空間を作っただけでは人は来ない。 人の流れというものを作り、それによって色々な設備ができていくという形が望ましい。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 新幹線が来た場合、港まで引っ張ることが一番大事である。 駅から港まで列車を走らせるという話も出ている。 港を中心に、氣比神宮辺りまでの散策路というものをきちんと作り、人の流れを作っていくことは、行政だけでなく、市民全体で考えていかなければならない問題である。 世代交代でみんな店を閉めるため、今の状態では商店街に頼ることは好ましくないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 旅客電車を走らせるほどの耐久性はないと担当課から聞いている。 全面的に線路を張り直すぐらい大規模なことをしないといけない。
	<ul style="list-style-type: none"> 金ヶ崎線は、線路が埋められているので少し難しい。 連絡道路とした扱いをどうするのか、これからの課題として検討してほしい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> お金がかからない方法として、黒部溪谷のトロッコ列車みたいな簡易なものでも良い。 駄目なら、駅から港までのシャトルバスを充実させる等、人の流れを持ってくるような形にしないといけない。 	

	<ul style="list-style-type: none"> 敦賀酒造は持ち主の関係で話が進まなかったが、あのままにしたら全部朽ちてしまう。 博物館通りの構想をどうするのか。今のままだったら問題であるという気がするので、まちづくりの観点で、検討してほしい。 	—
観光	<ul style="list-style-type: none"> 一番大事に思うのは、敦賀市民が行って楽しめるような方向で、施設を考えてほしい。 市民が行かないような場所に、観光客が来るとは思えない。 新ムゼウムもぜひそうあっていただきたい。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 現施設が本当に使える状態にあるのか。 例えば緑地公園に行って、そこで休める状況になっているのかどうか。 まずは現施設をきちんと整備することが必要である。 「現在あるもの」をどう生かすか、を第1に考えないといけない。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 神楽商店街としては、空洞化や衰退化を防ぐ手段を色々と考えてきた中で、新しいものを作るのもいいが、古いものを大事にすることを考えてほしい。 相生町と神楽通りはまさしく松尾芭蕉ロードではないか。 金ヶ崎緑地に行ってもそこからすぐ帰ってしまうのもったいない。 新幹線の受け皿でも人道の港という声があまりにも大きすぎて、他のことが忘れられている。 氣比神宮—金ヶ崎—山車会館—相生通りを回ると一つのリングができ、周遊できる。 歴史遺産や文化遺産をどのようにして維持、保存して検証していくかということは、そのまちの文化程度のいい目安となる。 地区の特色をもう一度洗い出しすると、そこに出発点がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 北地域にはたくさんのお宝が眠っていると感じている。 今あるものをもう一度きちんと見つめ直して、その魅力をまず敦賀市民自身が気付かないといけないと感じている。 マスタープラン策定にあたって、特色の洗い出しのいい機会だと思うので、検討したい。
	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を連れていくと喜んでくれるところは、金ヶ崎の月見御殿、松原海岸などがある。 あるものをもう少し大事にし、もう少し磨きをかけたら良い。 今あるものの検証と、新設した施設の運営方法について考え直す時期である。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> 観光客が来られると港方面へよく行くのを見かけるし、観光客も金ヶ崎へ行きたいといっているが、距離的な問題がある。 赤レンガ倉庫の駐車場から直接金ヶ崎につなげるようになるともっと人が流れると思う。 赤レンガは1月2日から営業開始しているので、新ムゼウム館も開館してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 金ヶ崎周辺については、担当部局の方で金ヶ崎整備構想などの具体的な構想を作っており、今回のご意見をお伝えする。

敦賀市都市計画マスタープラン策定に係る地域別説明会 ～北地域～ 開催結果

文化	<ul style="list-style-type: none"> ・本町通りなども昔は賑わっており、港町のロマンがあり、敦賀は色っぽい所がある。 ・新幹線の終着駅というのをロマンにつなげて、それをまちづくりに生かせないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀の歴史からみても、欧亜国際都市といったことで非常にロマンのある地域だったと考えるので、うまくPRできればと考えている。
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化センターの所がいま何も活用されておらず、もったいないと感じるので、何とかできないか。 	—



■アンケート集計結果

参加者からアンケート形式で意見等を聞き取り。

▼地域にふさわしいキャッチフレーズ（回答数：2人）

- ・赤レンガ倉庫から金ヶ崎宮への通路の確保
- ・港を中心として戦後スタートした町として”港町敦賀”

▼地域から連想されるキーワード（回答数：6人）

- ・舟だまり
- ・気比神宮
- ・金ヶ崎
- ・金ヶ崎緑地周辺
- ・金ヶ崎宮
- ・博物館通り
- ・昔からの街
- ・天筒山
- ・児屋の川
- ・港
- ・駅から歩いて行ける
- ・海の幸が食べれる
- ・敦賀駅～港への人の流れの確保の道路
- ・気比神宮前門前町の問題（神楽町）
- ・ムゼウム館の管理体系別（休日開館可能）
- ・松尾芭蕉の杖跡の残るオンリーワンの地区
- ・気比神宮－金ヶ崎（ムゼウムを含める）－博物館－芭蕉の杖跡のリング

▼現在、感じている地域の課題・問題点（回答数：5人）

土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・空洞化が進んでいる割には固定資産税が高い。 ・店舗やスーパーがなくなっていく。 ・近くに買い物ができるスーパー等がない。 ・大地主さんの空地、倉庫、住宅（空家）等が塩漬け状態となっており、活用できない。
公有地の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・市・県との調整により港地区の整備が必要。 ・継続した取組が必要。
地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・老人が多く若者が少ない。 ・駅にも病院にも近く便利な地区であるので、今後の人口流入地区となるための施策がほしい。
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館通り（清明の朝市など）、金ヶ崎緑地の周辺（ミライエなど）ではイベントがたくさんあるが、その時限りのにぎわいである。 ・常時飲食できる所や、みやげ物などがほしい。